

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和6年9月6日（金）
9時30分～

場 所 岡谷美術考古館 3階多目的スペース
署名委員 小平教育委員、藤森教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 岡谷をめぐる教育の課題について（岡谷市教職員研修会講演記録より）【資料 No.1】
(学びの創生・連携支援室)

○ 報 告

1. 令和6年9月定例会の議案について【資料 No.2】 (教育総務課)
2. 令和6年度おかや小学生夏休みわくわくサマースクールについて【資料 No.3】
(教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、
教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 白田 研一、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
川岸学園整備室川岸学園整備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和6年9月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は小平教育委員と藤森教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： 初めに私から報告をします。

今週末は二十四節季の白露です。草花に朝露がつき、白く輝く様子を表しています。最近は虫の音が聞こえたり、蜻蛉を見かけることが多くなり、秋の訪れを感じています。この時期でも百日紅やノウゼンカズラの花を見ることができます。

子どもたちの姿から報告します。8月21日に2学期が始まりました。児童生徒の交通事故や大きな怪我の報告はありませんでした。子どもたちの元気な顔が、我々にとって一番の力になります。

8月19日には広島平和体験研修の解団式がありました。新聞にも載りましたが素晴らしい報告でした。岡谷市の広島平和体験研修の特徴の一つは、二人の語り部の方からお話を聞くことができます。生の声を聞くことは子どもたちにとって、大きな学習になると思います。参加生徒の報告の1部を紹介します。

「語り部の方のお話で『勝手に平和にはならない。一人ひとりが平和をつくる』という言葉が皆さんに伝えたい。身近な平和への取り組みを知り、私は一人ひとりの意見を尊重し、平和の尊さ、原爆や戦争の恐ろしさを知ることから、『今』をはじめていきたい」

「私たちは実際に原爆や戦争を経験したことはない。だからこそ私たちが過去の話に関心を持ち、知ろうとする。その気持ちがあれば後の世代にも受け継がれ世界平和につながっていく。」

子どもたちの真剣なまなざしと学びの姿がとても印象的でした。目標を持ち、自分の目で見て、知ったことを帰りのバスの中でリフレクションをして発信をする。まさに学び続ける子どもたちの姿を見ることができました。

引率した先生の方からは、「話す」のではなく「伝える」という言葉を使っている生徒がいることが印象に残っている先生や、三日間皆さんと一緒に過ごせて幸せだった、といった感想が出ました。岡谷市の重点目標に自立と共生のインクルーシブ教育の充実がありますが、その中にはいのちを守る教育の推進も含まれています。今後も大切にしていきたいと思います。

宮坂教育長：

8月22日に区長会の要請による岡谷の教育を考える懇談会として、21区の区長の皆さんと懇談する会がありました。コロナ禍で中断されていた会ではありますが、子どもたちの成長を地域と共に考え、願いを共有しました。今後も本懇談会は継続してほしいと思っております。

生涯学習課から、「考古講演会」についてであります。

「美術考古館」では、京都国立博物館 保存科学室長の降幡順子先生をお招きして、8月25日はカノラホール、翌26日には岡谷東部中学校で講演会を開催いたしました。

カノラホールでは約200人の大勢の方が来場され、高松塚古墳の埋蔵壁画の保存技術のほか、先人たちが守ってきた価値ある遺物を後世に継承する意義について貴重なお話をお聴きいたしました。

約1300年間、埋没していた壁画を保存するために、カビを除去した時の苦労話や最新のデジタル技術を用いた解析など、大変興味深くわかりやすいお話で、驚きと息を呑む時間でありました。

また、岡谷東部中学校においては、全生徒が講師の仕事の内容、目指したきっかけ、講師の先生が大事にされてきたことなど、考古への理解と将来の就職の参考としてもらう、キャリア教育の要素も含めて、お話をいただいたとお聞きしております。生徒たちにとっても、岡谷東部中学校出身の専門家の話を聴ける貴重な機会であったと考えております。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

昨年好評をいただいた「岡谷市民ニュースポーツフェスティバル」が、8月18日に岡谷市民総合体育館で開催されました。ニュースポーツの普及促進を目的に、スポーツ推進委員が中心となってルール説明や実技指導を行い、参加者へニュースポーツの魅力を伝えていただきました。

当日は子どもから大人まで43名の参加があり、グループごとに分かれて8種目のニュースポーツを体験され、それぞれ対戦を楽しむなかで、心地よい汗を流しておりました。

終了後のアンケートのなかでは、「簡単にできたので楽しかった」、「とても満足したので、また参加したい」、「体を動かす機会が少なかったのでよかった」などの意見がありました。これからも、気軽に親しめるニュースポーツを、多くの皆さんに活用してもらえよう、努めていきたいと思っております。

私からの報告は以上であります。それでは議題に進みます。

○議 題

1 岡谷をめぐる教育の課題について（岡谷市教職員研修会講演記録より）

<令和6年7月23日に開催した講演会（・講師：福井大学副学長 松木様・対象：岡谷市教職員）について、資料1に基づき、事務局より説明>

小平教育委員： 省察的实践者という言葉がよく出てきましたが詳細について教えてください。

事務局（演）： 松木先生はキーワードとしてこの言葉をよく使われていました。教師は経験を積み上げていくことがとても大切であり、その経験を振り返った時に、更に良い積み上げ方があるのではないかと、といったことを他の先生との対話で改めて感じる場合があります。実践記録を書きながら過去を振り返って、自分の歩みはどうだったかつなぎ直すことで、これからの子どもたちとの学びがさらに良くなっていくイメージです。省察をすることで、さらに自分の新たな実践につなげていくことが省察的实践者の意味です。

太田教育長職務代理者： 今回の講演内容は、時代の変化を踏まえて協働的かつ探究的な学びを学校に根付かせて、子どもの学びのために教師は考え方を変えていかなければならない、という捉え方でよろしいでしょうか。

事務局（演）： その通りです。併せて岡谷市ではこういった仕組みを先進的に作れるのではないかと、というご提案もありました。

宮坂教育長： 岡谷小学校の統廃合の時から、岡谷市は小中連携を大切にしています。中1ギャップの解決に向けて、児童だけでなく小学校の先生も、中学の授業の見学を年数回実施しています。幼保小の連携も力を入れており、小1プロブレム解消のための体験入学や、児童が幼稚園保育園を訪れ一緒に学習をする取り組みを大切にしてきました。

川岸学園設立準備委員会も発足しました。これからソフトの部分を深めていくところですが、他にご意見等あればお願いします。

太田教育長職務代理者： どうしても心配になるのは、今回のような方向性を持って教育の場を作った際の、成果を測ることの難しさです。今までは良くも悪くもペーパーテストの点が良くなれば成果が出たと判断できましたが、これからはそういった測り方ができなくなってきます。ですが成果が出れば地域の皆さんからの賛同も得やすい面もあると思います。

県教育長も、信州の学びを変えていこうといった話をしており、私も賛同はしているのですが、今までのペーパーテストの点数を見るような成果の測り方をすると、確実に成果が落ちるとも言われています。そうなった

太田教育長職務代理者： 時にそれを問題と感じる人も出てくる可能性があります。川岸学園では新しい取り組みをしてほしいと思うと同時に、そういったことが心配でもあります。

事務局（濱）： 目に見える成果としてペーパーテストの点数がありますが、その点数には表れない部分の学力をつけていくことがこれからの学びになっていきます。高校入試もあり方を変えていくと示されており、問題も変わってきているとは思いますが。成果が見えることをやりながら、同時に探究的、協働的な学びを進めていき、その結果数字で表れる部分も向上できる形になれば理想的だと感じています。

先進的な事例を研究しながら進めたいと思っており、理想を語っているとされてしまう部分もあるかもしれませんが、目指している姿はしっかり説明しながら進めていく必要があると思っています。

太田教育長職務代理者： 大きな転換期だと思います。以前ゆとり教育がありました。私はあの方針が成功か失敗だったか分かりませんが、外部から失敗だったと言われてしまうと、当時教育を受けていた世代が自信を持てない様子を見たことがあります。そうならないようにする必要があると思っています。

小平教育委員： 今回のような講演を聞けることは先生方にとってとても良い経験になったと思います。個人的には岡谷市は新しい取り組みをどんどん取り入れてほしいと思っています。しかし新しいことをすると新しい懸念材料が出てくるのも確かであり、難しいところです。

講演の内容に、アイデンティティに寄せて社会の一員としての姿勢をどうするか、といった内容がありました。これから自分はどう生きていくか迷う時期にヒントになる内容が多く含まれていると感じました。先生方は大変だと思いますがこういった新しい取り組みも必要だと思います。

藤森教育委員： 公立の小中学校に限った話ではないですが、様々な個性を持った子どもがいます。岡谷市として子どもたちに求める姿を明確にしたうえで、どういった学校づくりをしていくか、考える必要があります。時代の変化も含めて子どもたちが社会で生きていく力をつけていくことは必要だと思います。ブリコラージュという言葉が出てきましたが、どうあるべきかを主体的に考えることはとても大切だと思います。今あるものや自分の置かれている環境も含め、主体的に学んでいくことができる子どもたちにするための取り組みをしてほしいと感じました。

林教育委員： 先生方の研修としてこの講演があったと思いますが、私の会社では研修後に学んだことをどう生かすか、どのように成果につなげるかを考えます。しかし教育の現場になると、なかなか成果につなげることの難しさが

林教育委員： あります。

今回の研修を経て、例えばこういった取り組みをしたい、といった声があがったりしていますか。

事務局（濱）： 講演で出てきた長期実践記録を始めたいといった声がありました。また、市史編さん室のお話もあったのですが、先生のお話を受けて岡谷の魅力を教材化して授業に取り入れたいといったお話があったと聞いています。夏休み明けにどのような授業をしたいかイメージを持てた先生方は多かったと感じております。

林教育委員： 研修後にチャレンジができる環境も大切だと思います。先生だけでなく保護者の方も含めた講演もあれば学校と保護者が同じ方向性で進むことができ、より良いと感じました。

轟教育委員： 今回の資料を読んだ際に、なかなか聞きなれない言葉も多かったのですが、今日説明をいただいて理解が深まりました。

社会が豊かになると身体的発達は加速するが、平均寿命が延びると精神的発達は減速するという説明がありました。自分の経験を踏まえると、私の時代と今の子どもたちで、同じ年齢の時を比較すると、やっていることが少し幼いと感じることがあり、今回の説明で非常に分かりやすく理解することができました。このような時代の背景を知っていないと教育にも生かせないと思いますので今回のような講演は非常に大切だと思います。

自分の経験と照らし合わせる大人は多いと思います。これくらいはできて当たり前と感じてしまうときも、時代の背景を知っていれば納得できるところがあると思います。

黒板があって全員がそちらを向いて勉強するという姿を当たり前と感じる固定観念があります。今はパソコンも使いますしAIもあります。少子化が進んでいますが、統廃合だけが選択肢ではないとも感じました。

川岸学園構想ができた当初の漠然とした不安も、今回のお話で明確になりました。どうしても結果にこだわってしまう部分があり、そしてその結果がすぐに出てこないことが不安なのかと思いました。長期的な視点を持つことの必要性を理解しつつも、不安を拭うことの難しさがあります。新しいことを取り入れる際は、数段階の目標を定めて、こまめに示していくことは大切だと思います。

事務局（濱）： 様々な視点からのご意見ありがとうございました。市民の方への説明を進める中で、今回いただいた意見を踏まえた説明をする必要を改めて感じました。

宮坂教育長： 教育の世界では不易と流行という言葉をよく使います。変わらないものと変わっていかねばならないものがあります。学力保障と成長保障は相即不離です。私が新卒の時から異学年との交流が効果的であることは言われてきたことですが、自分が良いと思ってやっていることも、それぞれで意見を出し合い、省察する場も大切だと感じました。

続いて報告事項に入ります。

○報 告

1 令和6年9月定例会の議案について

<GIGA スクール構想により各校に整備された1人1台端末の利活用を進める上で、ネットワーク遅延等の課題が全国で顕在化しているため、ネットワーク診断を実施するための予算補正に関する内容を資料2に基づき、事務局より説明>

轟教育委員： ネットワーク回線につきまして詳細をお願いします。

事務局(両角)： 令和4年度に1人1台端末が始まったタイミングで学校のネットワーク環境の超高速化をしました。LCVの光回線が導入されています。少し動作が遅くなっている事例もあるようですので高速化に備えた対応になっています。

藤森教育委員： ネットワークに関するセキュリティが民間企業でも求められています。学校はどのような対策をしているのでしょうか。

事務局(両角)： 教育ネットワークは一般的な光ケーブルとは分けられ、専用の回線を使用して対策をしております。

林教育委員： タブレットが故障した際はどのように対応しているのでしょうか。

事務局(両角)： 市が所有している備品という扱いですので、壊れた時には別の端末に交替しています。1人1台端末を導入した令和2年度と比べると、今は児童生徒数が減少しているため未使用端末が増えている状況です。

2 令和6年度おかや小学生夏休みわくわくサマースクールについて

<夏休み中の小学生を対象にした学習支援（スキルアップ学習、岡谷子ども未来塾、美術考古館で夏休みアート、ものづくり wakuwaku プログラム）を資料3に基づき、事務局より説明>

太田教育長職務代理者： 子どもの体験格差が課題になっているなか、とてもありがたい取り組みだと思います。担い手の問題もあると思いますが、広いジャンルで取り組んでいただければ嬉しく思います。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長：

ありがとうございます。

その他連絡事項等ありますでしょうか。

今までのところで何かご意見等はございますか。

本日予定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。

教育委員さんから何か報告事項等ございますか。

それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）：

次回の定例教育委員会は

10月7日（月）9時30分から605会議室を予定しています。

よろしくお願いいたします。

宮坂教育長：

ありがとうございました。

以上で定例教育委員会を終了いたします。

12時00分 終了